

1 単元名「おにって、どんなおにがいるのかな？」 教材名「ないた赤おに」

2 単元の目標

- ・読書に親しみ、いろいろなおにが登場する本があることを知ることができる。
[知識及び技能] (3)エ
- ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動と人物像を具体的に想像することができる。
[思考力、判断力、表現力等] C(1)エ
- ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。
[思考力、判断力、表現力等] C(1)オ
- ・進んで、考えたことや感想を伝え合おうとする。
[学びに向かう力、人間性等]

3 指導事項に合致した言語活動とその特徴

指導事項に合致した言語活動として、「読み聞かせを聞いたり物語を読んだりして、内容や感想などを伝え合ったりする活動」を位置付けた。読み聞かせや本を読む活動を通して、「読書に親しみ、いろいろなおにが登場する本があることを知ることができる。」という目標を達成できる。また、読書活動全体を通し、「おに」の人物像は物語によって違い、これまでに読んできたおにと、本教材のおにを比較しながら、特徴をとらえたり、物語のどの部分からおにの人物像に気づいたりしたのかを明確にする必要がある。これらのことから、この言語活動を位置づけた学習活動を展開することで、「物語を読んで、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。」という目標の達成につながる。

4 単元について

(1) 教材観

本単元では、「ないた赤おに」を読み、心に残ったところと理由を書き、紹介し合う活動を設定している。今回は、次の単元である「お話びじゅつかん」につながるように展開していく。その際、読書活動を通し、様々なおにが登場する本を読み聞かせ等で児童に紹介しておく。様々なおにのイメージを児童の中にもたせておく。

「ないた赤おに」では、登場人物たちの関係の変化をつかむことが大切である。そのため、赤おにや青おに、村人たちの行動や会話を整理し、作品全体をつかみ、登場人物どうしの関係をおさえる。また、何をきっかけに物語や登場人物の様子が変化するのかに気を付けながら、丁寧に作品を読み進めていく。読み手である児童にとっては、人間と友達になりたい赤おにの気持ちも、それを手助けしたい青おにの気持ちも理解しやすいと考える。最後の場面では、村人たちと友達になれて嬉しいにもかかわらず、青おにの手紙を読んで涙を流したところで終わっている。作品の中で赤おにの気持ちが大きく変化したことが分かりやすく表現されている。また、気持ちの変化だけでなく、友達の青おにとの心のつながりを読み取りながら、気持ちの根拠となるところを考えさせながら読みを深めていきたい。

(2) 児童の実態

「読むこと」の意識調査の考察や、記述することについての実態調査は、省略させていただきます。

(3) 指導観

まず、単元全体を通して、おにが出る作品を並行読書として読ませていく。しかし、読書活動が好きではない児童に対しても声掛けだけでなく、読み聞かせを実施することで、「読書に親しみ、いろいろなおにが登場する本があることを知ることができる。」という目標を達成させる手立てとしたい。

第一次では、「ないた赤おに」を読み、登場人物や場面の数の確認をさせる。物語の全体が読めたら、初発の感想を書かせる。赤おにではない登場人物についての感想も予想されるので、共有の時間では、どの登場人物についての感想なのかを明確にしながら共有させたい。

第二次では、「赤おに」と「青おに」に注目して、人物像を読み深めさせていく。赤おにの気持ちや行動が分かる部分は赤色、青おにの気持ちや行動が分かる部分は青色で教科書に線を引かせる。そのためにも村人たちやおにたちの関わりから、気持ちの変化を読み取らせることが必要である。そして、どんな人物であるかを、①性格、②理由、③自分の考えの3点でワークシートに書かせる。③の自分の考えについては、自分の体験と結び付けて、自分と比較して考えを書けているかについて指導し、自分の考えをまとめさせていきたい。

第三次では、並行読書で読み進めてきたおにの出てくる作品から1作品選ばせ、第二次で使用したのと同じワークシートで他の作品のおにはどのような人物なのかを書かせ、まとめさせていきたい。どのような人物像か他の児童が想像できるように、並行読書の活動で他の多くの作品に触れておく必要がある。共有の時間に「この作品、読んでいないからわからない」とならないよう並行読書の活動を充実させていきたい。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 読書に親しみ、いろいろなおにが登場する本があることを知っている。(C(3)エ)	①場面の様子に着目して、登場人物の行動と人物像を具体的に想像している。(C(1)エ) ②文章の内容と今まで読んだおにが登場する本の内容を結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ)	① 進んで、考えたことや感想を伝え合おうとしている。

6 指導と評価の計画(8時間扱い)

学習過程	時間	学習内容・学習活動	評価規準・評価方法等
一次 (見いだす)	1	・学習の見通しをもつ。 ・文章を読み、登場人物や場面の数を確かめ、できごとの全体を捉える。	[思考・判断・表現]①(発言、ノート)
	2	・簡単な感想を書き、発表しあう。	[主体的に学習に取り組む態度]①(発表)
二次 (自分で取り組む) (広げ深める)	3	・お話の始めの赤おにの人物像を村人と青おにの関わりをまとめる。	[思考・判断・表現]①(発言、ノート)
	4	・ふたりのおにの気持ちの変化があったところがあるか、考えを発表し合う。	[思考・判断・表現]①(発言、ノート) [主体的に学習に取り組む態度]①(発表)
	5	・ふたりのおにはどのようなおにかワークシートを書く。	[思考・判断・表現]②(ワークシート、発表)
	6	・どのようなおにか書いたものを発表しあう。	[主体的に学習に取り組む態度]①(発表)
三次 (まとめあげる)	7 (本時)	・お気に入りの物語の「おに」はどんなおにかワークシートに書き、発表し合う。	[思考・判断・表現]②(ワークシート、発表)
	8	・書いたことをもとに紹介し合う。	[知識・技能]①(発言) [主体的に学習に取り組む態度]①(発言)

7 本時の指導(7/8)

(1) 本時の目標

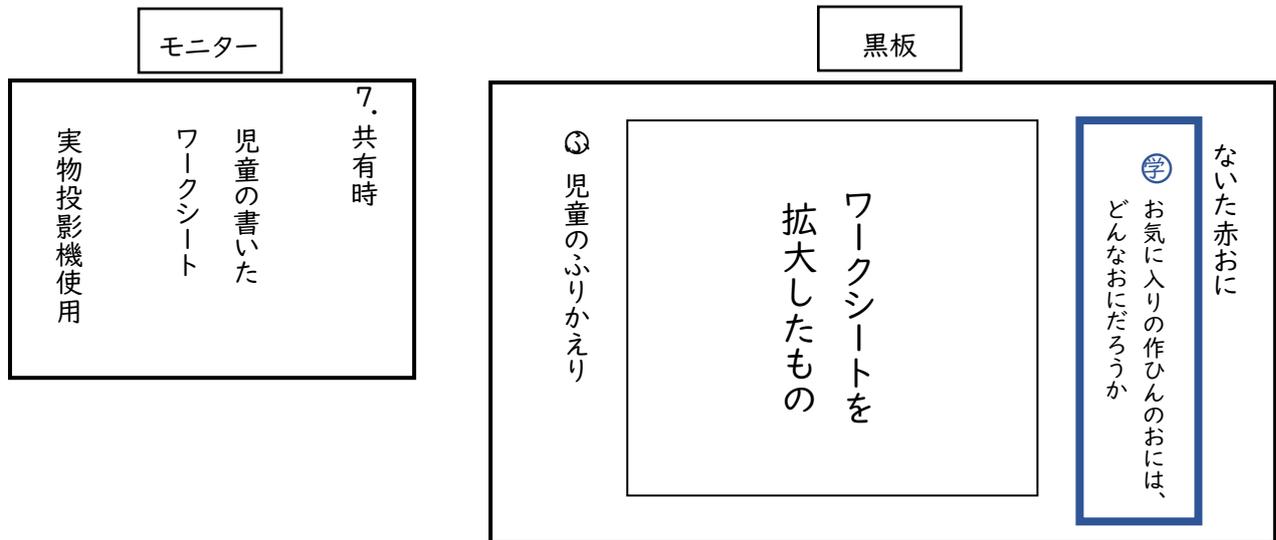
文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。

[思考力、判断力、表現力等] C(1)オ

(2) 展開

過程 時配	学習内容と学習活動	指導・支援(○)と評価(◇)	備考
導入 (見いだす) 5分	1 前時の学習を振り返る。 2 本時の課題をつかむ。 「お気に入りのおにの出てくる作品」の鬼の人物像について学習することを理解する。	○全員で取り組んだ、「ないた赤おに」の学習を振り返り、同じワークシートに他作品のことを書いていく活動であることを伝える。	学習計画表 ワークシートの拡大したもの
お気に入りの作ひんのおには、どんなおにだろうか。			
展開 (自分で取り組む) 15分	3 お気に入りの本を黙読する。 4 鬼の性格や考えが分かるページに付箋を付ける。 5 それぞれの鬼の性格、理由をワークシートに書く。	○どんな性格かわかるよう読むように助言する。 ○読むのが苦手な児童に対して、作品の理解を教師からも伝え、促す。 ○自分で貼った付箋のページを確認しながら書くよう助言する。	ふせん ワークシート
(広げ深める) 15分	6 自分の考えを、自分の経験をもとに照らし合わせながらワークシートに書く。	○鬼の性格、理由を書けた児童は、挿し絵をかくよう指導する。 ○よく書けている児童を確認し、この時間の終わりに発表することを伝える。 ◇文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。 [思考・判断・表現] <ワークシート>	
5分	7 友達と共有する。	○班を作り、共有するよう促す。 ○事前に教師から選んだ1,2名に発表するよう促す。	
まとめ (まとめあげる)5分	8 本時の学習を振り返る。 次の時間の内容を伝える。	○「わたがしやで」の確認をする。	

(3) 板書計画 (ICT 機器活用も含む)



(4) 評価

- A・・・おにの人物像を文中の言葉から抜き出し、自分の経験と結び付けて具体的に想像して書いている。
- B・・・おにの人物像を文中の言葉から抜き出し、想像して書いている。
- C・・・おにの人物像を文中の言葉から抜き出せず、見当違いの人物像を想像して書いている。

C の児童に対する手立て

- ・教師から個別に読み聞かせを行う。
- ・個別に聞き取りをし、性格とその理由となる部分に付箋をつけるよう促す。